

千代田で
日本共産党と
語るつどい

大企業優先の政治が暮らしをむしばんでいる 日本共産党の躍進で政治の流れを変えよう！



刻も早く解
散総選挙に
追い込んで
いくために
がんばって
いきたい、
と決意を述
べました。

「つどい」では、富田なおきがあいさつしました。
この間の活動で、宣伝カーで信号待ちをしている最中にも、若者から生活相談が持ち込まれたこと、医療・保育・介護の現場や、年齢や世代を超えた生活のあらゆる分野で、人の暮らしや命よりも、大企業のもうけが優先されている実態にみんな苦しんでいることを報告しました。
この政治をなんとかしても変えなければならぬ、そのために党の訴えをもっと語り広げていくことが大事と痛感していると述べ、東京1区から国民の声を反映して政治を切り替えていくためにも、みなさんのお力をお借りして、一

東京1区から、くらしと命を
大事にする政治への転換を

富田なおきがあいさつ



日本共産党千代田地区委員会は6月20日、「日本共産党と語るつどい」を開催しました。「日本共産党の話聞くのは初めて」という人や、仕事を終わって駆けつけた労働者、学生など、総勢100人余の「つどい」となりました。

佐々木憲昭衆院議員が講演

「変貌する財界と 日本経済の現状」

佐々木憲昭衆院議員が、「変貌する財界と日本経済の現状」と題して講演しました。

大企業のもうけが90年代以降、飛躍的に増大し、日本経済の対米従属が同じく90年代以降、急速に根深く広がり、ともに日本国民の富と暮らしを深くむしばんでいる実態を、政府の資料を使い説明しました。

また、会期末の国会情勢と、特に民主党の動きにもふれながら、今国会での日本共産党の果たした役割は、国民の願いとピッチリ合致するものであり、日本共産党の綱領の生命力を表したものと語りまし

た。
1年以内に総選挙があるだろうとの見通しのもと、日本共産党の躍進こそが政治を変える力であることを明らかにしました。

ので、本日は勉強になりました。グローバルな視点に立って今後も小売業を続けていきます。
経済の流れの中から国民本位に変えていかなければと思いました。
世論の流れが変わりつつある今こそ、自民でもなく民主でもない、共産党へ風を吹かさなければと強く思う。

佐々木議員の資料にもとづいた話はわかりやすく、大企業が空前の利益を上げている仕組みがよくわかりました。こういうつどいは初めてでしたが、勉強になりました。
経済から見た財界の変貌について、たいへんわかりやすい説明でした。
私は小売業でパートで働いている主婦です。長年、経済の仕組みが知りたかった

参加者の感想から



日本共産党衆議院東京1区若者相談室長

富田なおき

事務所ニュース

7 2008.6.29

発行：富田なおき事務所

〒162-0065 新宿区住吉町11-25
TEL 03-3357-3392 FAX 03-3353-4912
E-mail:tomita-naoki@nifmail.jp

富田なおきの生いたち

小学校時代を過ごした南陽市は、米沢盆地の北側にあり、一面はぶどう畑です。北西隣の白鷹町は、1972年に東京1区でトップ当選した紺野与次郎さんの出身地です。冬は雪が多く、除雪車が自宅の駐車場まで入ってきて、その雪の山でミニスキーをしたり、家族



世界でも有数の蔵王の樹氷

大学2年の頃

で蔵王にスキーに出かけたりしました。家によつては子どもも屋根の雪下ろしの手伝いをしていました。高校では自転車通学でしたが、道路が凍結していつも危ない思いをしていました。山形県は、日本でも有数の果物王国で、さくら

んぼ、ラ・フランスは生産高1位。ぶどう、りんご、桃なども有名です。米や牛肉など農・畜産物も豊富です。このような気候風土を反映してか、山形県人の特質として、親切・働き者・粘り強いといわれていますが、果たしてどうでしょうか。

冬は庭でミニスキーも。さくらんぼなど自然の恵み豊かな土地柄



大久保で「新しい日本の政治を語るつどい」

ヘルパー、看護師、ケアマネジャーが現場の実態を語る。6月15日、日本共産党大久保支部（新宿区）主催の「新しい日本の政治を語るつどい」がありました。介護や医療の現場で働く人たちも参加し、「お金のある人は自費でできるから、役所も介護保険から支出がなくて喜ぶ。お金のない人は、非常に利用が制約されていて、ヘルパーの仕事をしていていやになる」など、現場の実態が話されました。「私も後期高齢者ですが、せめて心穏やかに暮らせるようにするのが政治の仕事じゃないですか。今の政治家には、少ない年金で暮らす者の想像ができないのでは。共産党にもっと大きくなってほしい」と激励もいただきました。



あたたかい激励をいただき身の引き締まる思い（6月1日）

港区長選

オール与党勢力を相手に 金子たかしげ候補が大健闘



選挙結果を報告する金子たかしげ候補と富田なおき（6月17日）

「後期高齢者医療制度廃止」「区民のくらし最優先を」の訴えに熱い期待寄せられる。6月15日投票の港区長選挙で、日本共産党が推薦し港民主区政をつくる会が擁立した、金子たかしげ候補は、1万1803票（得票率28・69%）を獲得し、自民・公明・民主などのオール与党が推薦した現職を相手に大健闘しました。区長選が単独でおこなわれるよ

うになってから、日本共産党推薦の候補者として最高の得票数となりました。金子候補は、75才以上を年齢で差別する後期高齢者医療制度の廃止を国に要求すること、超高層ビルの乱立に歯止めをかけること、大規模開発より、区民のくらし最優先の区政の転換を訴えました。富田なおきも連日応援に入り、区政の転換を訴えました。金子候補の政策を読んだり、街頭演説を聞いた人からは、「後期高齢者医療制度を認める現区長はひどい。金子さんしかいない」「金子さんが言うように高層ビルはいらない」など、どこでもこれまでにない熱い期待の声が寄せられました。公約実現と国政をおもとから変えるために、ひき続き力をあわせてがんばりましょう。



今回のテーマは環境問題。映画「不都合な真実」を見た後、感想を語り合いました。（6月5日）

新宿の青年たちの「しゃべり場」に参加

新宿の新婦人内後援会が富田なおきを囲むつどい

「夏は来ぬ」と「若者たち」の歌声で始まり、私もトロンボーンで参加。「人柄をもっと知りたい」ということでしたので、自己紹介に時間をかけました。そして、社会保障を「金がかかる」と邪魔者扱いする政治をなんとかして転換したい、と訴えました。